



おかだ

第15号

平成31年3月11日

☎ 258-1083

FAX 258-2085

児童数 192名

協働型学校評価の重点目標

○明るいあいさつと相手の気持ちを考えた言葉遣いができる子供

平成30年度 岡田小学校 協働型学校評価アンケート結果について

「協働型学校評価アンケート」に御協力いただき、ありがとうございました。今回のアンケートの集約結果をお知らせいたします。【児童数192名、実家庭151中122家庭、地域の方17名、教職員14名】

また、過日、2月21日（木）に学校評議員会ならびに学校関係者評価委員会を開催し、委員の方に協働型学校目標の成果と課題について説明し、「学校」、「家庭」、「地域」の三者共通の取組について意見交換をいたしましたので、主な御意見を併せて御紹介します。

これらの結果を受け、日々の教育活動の改善に生かしていくとともに、次年度の教育計画の参考とさせていただきます。また、引き続き、「学校」、「家庭」、「地域」の三者が協力して、子供たちを励まし、良い方向に導いていきたいと考えていますので、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

(Aはい B:どちらかというとはい C:どちらかというといいえ D:いいえ E:わからない)

人

(1)	質問項目：明るいあいさつをしている。	A	B	C	D	E
児童	友達や先生、ボランティアの方々に進んで明るいあいさつをするようにしている。	137	48	2	2	3
保護者	岡田小学校の子供達は、友達や先生、ボランティアの方々に進んで「明るいあいさつ」をするようにしていましたか。	52	67	1	1	1
地域	岡田小学校の子供達は、友達や先生、ボランティアの方々に進んで「明るいあいさつ」をするようにしていましたか。	9	6	1	0	1
教職員	明るいあいさつと相手の気持ちを考えた言葉遣いができる子供「明るいあいさつ」	2	12	0	0	0

家庭でも地域でも児童は基本的な挨拶を身に付け、積極的に挨拶を行っていることが分かります。児童・家庭・地域のいずれもA、Bを合わせると95%を超えており、岡田小学校全体として元気のよい挨拶ができていると評価しています。外部から来た方からも「子供達の挨拶がとても良いですね。」と褒められます。学校全体で「めざせ あいさつ日本一！」という目標があり、一年間の生活目標で、具体的に挨拶の仕方や意義について指導してきたことや、「我が家の重点目標」で取り組んできたことで身に付いてきたのだと思われます。また、登校時に地域の方が必ず声を掛けてくださるので、進んで挨拶をするという習慣が自然に身に付いたと思われます。このように、学校、家庭、地域の三者で取り組んできた成果が数値として出ています。

挨拶に関する御意見等

- ・明るい挨拶はできている。特に高学年の児童が元気よく挨拶をしている。
- ・学校全体で「あいさつ日本一」という目標があるのはとてもよい。
- ・学校全体で取り組んでいて、定期的にお便りなどで目にすることができる環境にあるのがよい。
- ・中学生の立派な挨拶の仕方を小学生も見ている。また、地域の方のかかわりの中で自然に挨拶や感謝の気持ちを声に出すことができている。
- ・挨拶運動の取組について工夫が必要ではないか。
- ・相手の顔や目を見てはまだまだだと思います。顔を見ながらするのが大切である。
- ・近所の人にも挨拶をしたり、親も積極的に挨拶をしたりすることが大事だと思う。
- ・挨拶はどんな年代でも大事である。子供のうちにしっかり教えてほしい。

(2) -1	質問項目：相手の気持ちを考えた言葉遣いをしている。	A	B	C	D	E
児童	「ふわふわ言葉」を使うようにしている。	137	48	2	2	3
保護者	岡田小学校の児童達は、「ふわふわ言葉」を使うようにしていましたか。	23	67	21	3	8
地域	岡田小学校の児童達は、「ふわふわ言葉」を使うようにしていましたか。	9	6	1	0	1
教職員	明るくあいさつと相手の気持ちを考えた言葉遣いができる子供「言葉遣い」	1	11	2	0	0

【ふわふわ言葉】：相手を認める言葉等 例え「いつもありがとう」「すごいね」

(2) -2	質問項目：相手の気持ちを考えた言葉遣いをしている。	A	B	C	D	E
児童	「ちくちく言葉」を使わないようにしている。	111	58	9	5	9
保護者	岡田小学校の児童達は、「ちくちく言葉」をつかわないようにしていましたか。	27	56	28	3	8
地域	岡田小学校の児童達は、「ちくちく言葉」を使わないようにしていましたか。	8	7	1	0	1

【ちくちく言葉】：相手を傷つける言葉等

言葉遣いについては、学校も保護者も地域も場面や相手に応じた使い方について、課題があると感じているようです。児童はA、Bを合わせると85%を超えています。保護者の約20～25%があてはまらないと回答しています。普段は優しい声かけが多いのですが、友達同士の会話の中でちくちく言葉が聞かれたり、大人と話す時の言葉遣いが身に付いていなかったりした場面もありましたので、その都度指導してきました。

違う学年の子供同士でも仲が良く、男の子も女の子も一緒になって遊んでいるのがとても良い。という御意見も寄せられており、幼少期からの付き合いという強みを生かし、お互いに思いやる関係を育てていければと思います。

言葉遣いに関する御意見等

- ・大人と話す時の言葉遣いが身に付いていないように思う。
- ・高学年になるほど言葉遣いがぞんざいになっていくように感じた。
- ・ゲームの影響かこちらが聞いてびっくりするような言葉を口にする子供もいる。
- ・「言った子」「言われた子」お互いの気持ちを考えさせる場が必要である。
- ・人と関わる中で、嬉しかったことは人にもそうしてあげ、嫌と思うことがあれば他の人にそうしないということに心掛ける必要がある。
- ・相手の気持ちを考えた言葉遣いについては、家庭での親の言葉遣いやTVの見せ方等に気を付けながら、身に付けさせていく必要がある。

	質問項目：学校のことについて	A	B	C	D	E
児童	学校は楽しい。	130	41	7	6	8

AとBを合わせると、90%近くの児童が「学校は楽しい」と答えています。この結果から、周りの人と協力しながら安心して学校生活を送っていることが分かります。これは、1年間通して活動してきた、たてわり活動の良さが出ていると考えられます。たてわり活動では、6年生がリーダーとなり、全学年で一緒に遊んだり、いじめ0を目指した「OKADA-KIZUNAプロジェクト2018」で、「岡田っ子ミニ会議」等の話し合い活動を進め、「きずな集会」を実施したりしてきました。上級生が下級生の面倒をよく見て、学校を良くするためのアイデアもたくさん考えることができました。（特に挨拶や言葉遣い）

「交通ボランティア」、「ここにこボランティア」、「小1生活・学習サポーター」をはじめとする地域の方々が、学校内外の様々な場面で子供達を温かく見守っていることも、楽しく学校生活を送れる要因の一つだと思います。一人一人の力を伸ばしつつ、他の人のいいところを見習わせて、成長させたいと思います。